



教育支援(支援物資・CCH)

援助物資募集及び海外輸送

過去3年間の寄贈品と荷受件数は表の通り。2009年度は主に、鍵盤ハーモニカ1,675台、リコーダー1,039本が全国各地から寄せられ、ボランティアの活躍で清掃、梱包作業が進められました。

その他、東京都江東区、長野県波田町との協働事業で、合計500セットの中古机・椅子をカンボジアの3学校に贈ることができました。プレイベン県スイサカウ小学校の校長より、「240セットの机・椅子を寄贈いただき心より感謝申し上げます。当校のニーズが満たされとても嬉しく思います」とのメッセージが寄せられました。



日本の中古の机・椅子で授業を受ける子どもたち



東京事務所ではたくさんの方々に楽器清掃のお手伝いをいただきました



●支援物資荷受件数

2007年度	189件
2008年度	269件
2009年度	207件

過去3年間に東京事務所へ寄贈いただいた楽器

品目	2007年度	2008年度	2009年度
鍵盤ハーモニカ	1,325台	1,482台	1,675台
カスタネット	96個	132個	52個
鈴	10個	29個	4個
タンバリン	39個	62個	7個
足踏みオルガン※	13台	42台	1台
木琴	105台	12台	16台
リコーダー(アルト含む)	723本	501本	1,039本
ハーモニカ	85本	31本	124本
アコーディオン	1台	3台	5台
太鼓	61台	89台	10台

※リストに掲載している以外にも多くの楽器をいただきました。
※オルガンは国内倉庫の都合により、お受けできない場合があります。事前に東京事務所へご連絡ください。



横浜・大黒埠頭での輸送作業

幸せの子どもの家(CCH)運営サポート



小さな子ども達への読み聞かせ



CCHロードショー

①CCHの歴史と運営状況

JHPIは2002年に児童養護施設The Center for Children's Happiness(CCH:日本語名「幸せの子どもの家」)を設立し、以来運営サポートを行っています。

カンボジアでは内戦時代から現在に至るまでの間、貧困、エイズ、地雷などの諸問題が子どもの世代にまで影響を及ぼしています。不幸にも親をなくし、ゴミ山等の劣悪な環境の中で生活を余儀なくされている子どもが多数いる中で、一人でも多くの子どもに生きる希望と就学機会を提供し、自立を支援したいという思いから、建設及び支援に至りました。

2002年の開所時は16名でスタートしましたが、年々子どもの数が増え、みなが家族しながら楽しく充実した生活を送れるように、運営や設備も進歩してきました。

2006年には、子どもの増加と成長に伴い男子と女子の居住区を分離するため、第2棟目の施設(CCHⅡ)2階建てを建設しました。この2階は男子の居住スペースの他、1階は自立のためモーターバイクやコンピューター修理、裁縫等の職業訓練の教室として建設されました。近年では奨学金を得て海外に留学する者、来日して美容師の見習いをする者など、それぞれが自立に向けて歩んでいます。

このようなCCHの運営支援も8年目となり、支援の成果が子ども達に現れてきました。近年では子ども達が自発的に「CCHロードショーチーム」を編成し、休日を利用して、かつての自分達と同じ境遇の恵まれない子ども達へ、演劇(ドラックや児童人身売買等の諸問題に関する寸劇)やお絵かき、紙芝居、絵本の読み聞かせなどを通して啓発活動を行うまで自立してきました。支援を受けることで成長を遂げ、現在は時にサポートする側の経験も積んでいます。

2009年には、これまでも交流のあった別の児童養護施設Cambodia's Dump Children Committee(略称CDCC)と連携を深めることにより、受益者となる子どもの数は総勢140名を越える見通しです。また、CCHソカ所長の構想から、アメリカと香港の支援者がCCHの中に私立小学校を開校し、すべての小学生が質の高い授業を受けられるように計画し、近い将来には、地域の子供達に門戸を広げる計画も出されています。

これまで、CCHの子どもたちが就学の機会に恵まれ健全で豊かな心を育ててこれたのは、多くのサポーターが衣食住と教育環境を提供してくださったからに他なりません。今後もCCHの安定運営のために、ご支援をお願いいたします。

②財源について

資金面では、JHP本部が募集するサポーター等の寄付に加え、「連合愛のカンパ」の助成金を受けました。また、子ども達の未来の進学に備えて、過去の寄付の中から基金を開設しています。さらに、JHPIはCCHとの間で、2008年10月からの6年間、一般活動費の支援を継続する覚書を交わしています。

③CCHカレンダー販売

今年度はCCH支援及び広報を目的としたカレンダーを1,500部印刷し、841冊販売しました。残りはCCHサポーターへの特典の他、支援者拡大の為に広報等に活用しました。

ソカ所長

日本の皆さま、いつもご支援ありがとうございます。おかげさまで、CCHの子どもたちは基礎教育を受け、栄養のある食事を取り、基礎医療を受けることもでき、生活は多に改善されました。CCHは子どもの人権を尊重し、子どもの声を聞き、希望を与えるような施設であることを目指します。

ケオ・キムハック(男性14歳、中学1年生)

私は5歳の時にエイズで両親を亡くしました。その後兄弟と祖母の家で暮らしましたが、生活は苦しく、時にはご飯を食べることができませんでした。学校に行きたくても、そのような余裕はありませんでした。ゴミ山で働かなければならなかったからです。しかし2003年に姉のマニンとCCHに入所してから生活は夢のようでした！勉強ができ、たくさん睡眠を取れ、おなかいっぱいご飯を食べられたからです。そして沢山の友達ができ、先生たちはやさしくしてくれました。兄のチェスダと姉のシナッは奨学金で現在外国へ留学しています。私もいつか留学したいです。そして将来コンピューターの先生になりたいです。最後に、日本の支援者の皆さまに感謝いたします。

ロン・サンポー(女性14歳、中学2年生)

私はCCHに来る前、学校へは行っておらず、母親と貧しい生活をしていました。でもCCHでは十分な食事を取れ、学校に行くことができ、友達がたくさんいて、協力しながら生活することを学びました。たくさん勉強し、良き生徒、良き子どもであることを約束し、そして小さな子達のお手本となるように努力します。